令和６年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 蓮沼 小学校 ）　　学校番号　６９　　【様式】

目指す学校像	○明るく元気のある学校　○互いに学び合う学校　○安心・安全な学校　○地域に開かれた学校

重点目標	
	１　研究と修養に努め、児童が自分で学びを作れる魅力ある質の高い授業の実践 ２　児童の人権・生命を尊重するとともに、個人情報の適切な管理を行う健康で安全な学校づくりの推進 ３　コミュニティスクールを活用した、保護者・地域とともに歩む学校教育の推進 ４　全ての児童が Well－being を実感できる学校を目指す、組織的に活動する学校作りの推進

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和７年２月１３日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね満足できる結果である。 ○日頃の学習の様子から、ICT 機器を活用し、振り返りや反復練習（ドリル）をしたり、プレゼンテーションしたりすることに意欲的に取り組む児童が多い。 〈課題〉 ○国語の「当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている 漢字を文の中で正しく使うことができる。」で課題が見られる。調査の前半と後半の無回答率の差についても課題が見られるため、学習に対して最後まであきらめずに取り組む姿勢を育成する必要がある。	・研修による授業力向上	１　個別最適な学びを軸とした校内研修の推進 ２　全国及び市の学習状況調査について、分析を行うとともに、市教委によるカウンセリング研修を受けることで、より効果的な手立てを設定し学校全体で児童の漢字に関する学習の向上を図る。	１　調査結果の分析を踏まえた、授業改善の視点、手立て等を学年ごとに設定することができたか。 ２　国語の「当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている 漢字を文の中で正しく使うことができる。」の正答率が向上したか。	１　調査結果の分析を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定し、授業を実践することができた。 ２　全国学習状況調査国語の「書くこと」の正答率が前年度比４４ｐｔ向上。（全国△０．８）	A	１　個人研修、目的別チーム研修の体制を構築し、児童の実態に応じた授業改善を継続して行う。 ２　一つの教科担任等で児童一人ひとりの課題を克服することは難しい。全国、市の学習状況調査を学校全体で分析し、カリキュラムマネジメントを意識した指導体制を構築する。	タブレットを軸とした ICT の活用が定着しているのがよい。 「書くこと」について、単純に漢字を書くだけではなく文章の中で適切なものを判断していく力が求められているということなので、より工夫した指導が必要と感じる。
		・学びの自律化・探求化に向けたスタディログを活用する授業実践及び改善	１　国語、算数についてスタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況を基に児童への学習の目標の見直しの時間を設定し支援を行う。	１　アプリの個々の学習状況等を活用し、児童が学習の見直しを行う時間を設定することができたか。	１　アプリの個々の学習状況等を活用し、児童が学習の見直しを行う時間を設定することができた。	B	１　児童、教師ともにスクールダッシュボード等のスタディログの分析に課題がある。学習ログを活用して、個別最適な学びを推進する具体的な方法を共有して研修を進める。	
2	〈現状〉 ○いじめ防止に関しては、肯定的な意見が児童９５％、保護者９１％、教職員１００％である。いじめ認知が積極的に展開され、いじめの重大事態が起こることがなかった。 ○教育相談については、肯定的な意見が児童７９％、保護者９４％、教職員１００％全体的に高い結果である。 ○施設等による児童の大きなけが等は発生していない。 〈課題〉 ○重大事故はないものの学級・学年内の児童同士のトラブルは課題である。 ○教育相談について児童の割合が低いことが課題であり、多様な児童のニーズに応えられていない場面があることが考えられる。 ○施設面において大きな事故はないものの、開校５１年目を迎え老朽化している個所もあり教職員、児童の安全に対する意識を高めながら未然防止を図ることが課題である。	・チーム蓮沼として行う生徒指導・教育相談 ・積極的な生徒指導の実践、児童の健康管理	１　生徒指導・教育相談での教職員間の共通理解を図る場の設定、ＳＣ、ＳＳＷと連携を図った教育相談体制の更なる充実 ２　児童の成長を支える教育相談の充実 （ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ・ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ等関係機関との連携） ３「いじめ」の早期発見、早期対応 （いじめを察知する力の向上、アンケートの活用、面談の実施等）	１　児童理解研修を年間２回以上実施することができたか。 ２　学校評価アンケートにおいて、児童において【教育相談】の項目が肯定的な回答が向上することができたか。 ３　学校評価アンケートにおいて、保護者において【いじめ防止】の項目が肯定的な回答が向上したか。	１　児童理解研修年間２回実施 ２　【教育相談】肯定的な回答の割合、児童８１％、２ｐｔ向上　保護者９５％、１ｐｔ向上、職員１００％ ３　【いじめ防止】肯定的な回答の割合、児童９３％、２ｐｔ減少、保護者９２％、１ｐｔ向上、教職員１００％	A	１　SC、SSW、管理職等に加え、外部機関との連携を図りながら、毎月の教育相談日等を中心に、保護者の相談等に対応する。 ２「スクールダッシュボード」「心と生活のアンケート」や児童教育相談週間等の面談を実施し、子どもたちの悩みや相談に対応していくとともに、児童が相談したい時に相談できる体制づくりを強化し、担任以外の教員も積極的に声かけを行う。 ３　学校全体でのいじめ撲滅への取り組みを継続する。日頃の児童の変化の見取りや面談の取り組みを通して、いじめの撲滅、早期発見、迅速な対応に努める。	学校評価の結果は大方、児童がよく、保護者が低く、職員がその間という感じであるが、３健康・体力　１０教育相談　１１個性の伸長　１４生活習慣はその形ではない。その結びつき結果を今後考察していくとよいのではないか。
		・施設管理の徹底による、安全で衛生的な学習環境の充実	１施設設備管理に対する教職員の危機意識を向上させるため、担当箇所の点検方法（点検のポイント、報告手順）に関する講習会を５月末までに実施する。 ２　月１回の安全点検、巡視による校舎内施設設備の点検（毎日）、屋外点検（週１回）の結果を市教育委員会と連携し、２週間以内に安全対策を行う。 ３安全朝会、講話・生活朝会により防犯、交通、防災等の安全教育に関する講話を各学期１回実施し、児童の危機回避能力を育成する。	１　学校評価【校内美化・学校安全】「学校は、校内美化に努め、安全な学習環境を整えていると思いますか。」の項目が肯定的な回答９７％以上（保護者） ２　月１回の安全点検、巡視による校舎内施設設備の点検（毎日）を実施できたか。 ３　学校評価【校内安全】の項目が肯定的な回答が９８％以上（児童）	１　【校内美化】肯定的な回答の割合、児童９８％、保護者９６％、教職員１００％ ２　月１回の安全点検、巡視による校舎内施設設備の点検（毎日）を実施できた。 ３　【校内安全】の項目が肯定的な回答の割合児童９９％１ｐｔ向上	A	１　定期的な安全点検の報告を通して、優先順位をつけて設備の修繕を実施することができた。点検のポイントを具体的に明記したことで早期発見につながった。 ２　複数の目による点検を実施したことで、校舎内の安全対策を早期に実施することができた。 ３　継続して、朝会等を活用して児童一人ひとりの意識を高めるとともに家庭と連携して児童の危機回避能力を向上させていく。	体育館は非常用の避難所になっているので、扉などを含めた安全管理や改修について取り組んでほしい。
3	〈現状〉 ○元気なあいさつについては、肯定的な意見が児童の９０％、保護者７６％、教職員１００％であった。 ○集団生活のルールやマナーについては、これも児童、保護者、教職員ともに９５％以上の肯定的意見であった。 ○思いやりの行動についても児童、保護者、教職員ともに９６％以上の肯定的意見があった。 〈課題〉 ○あいさつについては、自発的なあいさつができないという点が、保護者、地域、教職員の中で共通理解が進んできている、さらにあいさつが文化として定着するために継続して取り組む。	・地域との連携・協働による当たり前のことを当たり前に行える児童の育成	１　講話朝会、学校だより等を活用したあいさつの啓蒙 ２　毎週月曜日の児童会主催のあいさつ運動の実施 ３　蓮沼小のやくそくの児童・保護者・教職員の共通理解のもと、指導支援を行う。 ４　教育活動の積極的な公開（各種たより、あいさつ運動、学校公開、行事、金管バンド）と地域行事への参加や地域から学ぶ教育課程の充実（全教科領域）地域・保護者の協力によるボランティア（防犯・図書・学習・はすネット・チャレンジ・はすメイト等）	１　学校評価アンケートにおいて、【あいさつ】の項目が肯定的な回答が９３％以上とすることができたか。 ２　あいさつ運動を学期に８回以上実施できたか。 ３　学校評価アンケートにおいて、【集団生活】の項目が肯定的な回答が９３％以上とすることができたか。 ４　児童アンケート「「地域の人たちは、自分たちを見守りささえてくれている」と思います。」の項目が肯定的な回答が９５％以上　学校評価アンケートで【情報公開】の項目が肯定的な回答が向上したか。	１　【あいさつ】の項目が肯定的な回答、児童９１％、保護者７４％、教職員１００％ ２　あいさつ運動を、２４回実施（１２月現在）することができた。 ３　【集団生活】肯定的な回答の割合、児童９７％、保護者９６％、教職員９７％ ４　【情報公開】肯定的な回答の割合、児童８３％、保護者８７％、教職員７８％	A	１・２　あいさつ運動や日常的な指導のみならず、児童会活動、道徳の指導、生徒指導など総合的な視点から児童、学校、家庭、地域で連携して指導していくことが必要である。様々なイベントなどと連携しながら、最善な方策について生徒指導主任を中心に検討・実施する。 ３　端末の利用のルールに課題がある。家庭と連携しながら適切な利用方法を丁寧に児童・家庭と共通理解を図り指導を行っていく。 ４　手紙配信アプリ、学校 HP、学校安心メールを活用しながら、学校から積極的に保護者が求める情報を必要な時に提供できる体制を構築し情報発信を継続する。	蓮小は、来校者に対してとても挨拶がよくできている。低学年は、先生がまず挨拶してくるので、子供たちも大きな声で挨拶してくる。通学も班長がしっかり挨拶すると班員もみな挨拶してくる。
4	〈現状〉 ○エバンジェリスト、研修主任を中心とした研修により授業における ICT ツールの活用が定着している。 〈課題〉 ○全教職員が活用方法等を学年内で情報共有・実践をしているが、他学年等への共有が課題である。	・児童一人ひとりの Well-being を実現するための教育活動の推進	１　児童一人ひとりの良さを見つけ、資質の向上を図り、指導・支援ができるように、最新の教育情報を提供するため、課題研修と連携して年間に８回以上情報共有の時間を設定する。 ２　個別最適な学び・協働的な学びの推進のために情報を収集し、Teams や回覧等で全教職員に情報提供、職員集会、課題研修等で補足の説明を行う。	１　研修等を活用して年間８回以上情報共有の時間を設定できたか。 ２　学校評価アンケートにおいて、保護者・児童において【個性の伸長】の項目が肯定的な回答が８８％以上とすることができたか。	１　課題研修や学年会等を活用して、授業内での ICT 活用の実践を共有する時間を８回以上実施 ２　【個性の伸長】肯定的な回答の割合、児童８７％、保護者９０％、教職員１００％	B	１　児童に合った授業のスキルの向上を図るために、様々なキャリア段階に応じた研修の場を設定する。 ２　児童が活躍できる場や機会を設定する。授業において、児童それぞれのよさを生かせる場面を設定したり、認め励ます指導や声掛け適切な評価等をしたりすることで、自己肯定感や自己有用感を高める。	【情報公開】の点について評価が他の項目と比べて低い数値になっているが、コロナ禍前との比較で意見が出ているとすれば、より工夫した情報発信が必要と言える。